

専徳寺報

第448号

令和元年9月13日発行
浄土真宗本願寺派
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000

http://sentokuji-iwakuni.net/

専徳寺

検索

専徳寺納骨堂受付中

秋讃仏会(彼岸会) 法要

併修 戦没者追悼法要

御案内

秋のお彼岸をご縁に讃仏会法要をとめます。にぎにぎしくご参詣ください。

日時

9月27日(金)	昼 1時30分～3時30分
28日(土)	夜 19時30分～21時
	昼 (ご満座) 1時30分～3時30分

ご講師 本願寺輔教

安方 哲爾 師 (大阪)

●法座奉仕：通津中(北町・本町・新町・郷) 地区

●戦没者追悼法要 27日昼座

戦没者を追悼し、ご遺族の焼香があります。

●参拝セット(念珠・聖典・式章・聴聞カード)

どうぞお持ちください。

秋の展示会

ご門徒の方の作品を展示いたします。

●作品募集「秋の展示会」

絵画・手芸品・工芸品等、ご門徒皆様の作品を募集いたします。法要前日(26日)までにお持ちください。再来月の永代経法要まで展示させていただきます。



如来・人・言葉

112

内藤知康

Q 浄土真宗の教えでは、命終って浄土に生まれ、そこで先だつてゆかれた懐かしい方々に再会できると日頃から聞いていたのですが、ある先生が「また会える世界」としてお浄土をとらえるのは間違いだと言われました。懐かしい方と会えないのだろうかと思んでいます。どうなのでしょうか？

A 私たちは聖人が待つ浄土へ生まれてゆく

親鸞聖人は、お手紙の中で「かならずかならず一つところへまゐりあふべく候ふ」とおっしゃっています。このお言葉は、亡くなられた覚念房というお弟子について、聖人ご自身と領解が同じであると述べられた後に続けられています。つまり、領解が同じ人は、同じ浄土に生まれてゆくということです。

また、『教行信証』の中には、自力によって生まれてゆく浄土は、みな違う浄土だといふのは、浄土へ生まれてゆくための原因、つまり修行や積み重ねる善根が一人一人違うので、得られる結果も違うということを意味しています。それに対して、他力による往生は、みな同じ本願力という原因によるのですから同じ結果を得る、つまり同じ浄土に生まれてゆくことになるのです。原因が違えば結果も違い、原因が同じであれば結果も同じであるということです。

さて、「また会える世界」としてお浄土をとらえるのは間違いだといわれる方は、親鸞聖人の「一つところへまゐりあふ」とのお言葉をどう考えておられるので

しようか。往々にしてみられるのは、『教行信証』などの漢文で書かれた書物に比べて、お手紙などは相手にあわせた次元の低い説き方がされているという理解です。

しかし、これはとんでもない理解と云うべきでしょう。親鸞聖人という方は、相手にあわせて次元の低い教えを説かれるような方ではありません。聖人は、師の法然聖人の「浄土宗の人は愚者になりて往生す」というお言葉を出され、法然聖人が、学問は無いがお念仏を喜んでいる人を見て間違はなく浄土に生まれてゆくだろうと喜ばれ、逆に学問を鼻にかけている人を見て果たして浄土に生まれてゆくことができるかどうかといわれたというエピソードを紹介しておられます。

『正像末和讃』の
よしあしの文字もしらぬひとはみな
まことのころなりけるを

善悪の字しりがほは
おほそらごとのかたちなり

寺内だより

み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

7月8日御往生

牛野谷

中村 豊子様 (87)

喪主 中村 邦男様

7月9日御往生

木更津

佐々江須賀子様 (91)

喪主 佐々江恵子様

8月9日御往生

通津

呉田 勝彦様 (83)

喪主 呉田 初野様

ついたち礼拝(月のはじめをお寺から)

という一首も同じ意味でしょう。

漢文で書かれた書物に比べて、お手紙などには次元の低い教えが説かれているというの、漢文の読めない人は次元の低い教えにしか触れることができないうが、漢文を読むことのできる自分は次元の高い教えが理解できるといふ傲慢な姿勢であり、親鸞聖人が「おほそらごとのかたち」といわれ、最も嫌われた姿勢でしょう。

親鸞聖人は、またお手紙に、「この身は、いまは、とときはまりて候へば、さだめてさきだちて往生し、候はんずれば、浄土にて、かならずかならずまぢまゐらせ候ふべし」と述べられています。私たちは、聖人の待つていてくださるお浄土に生まれてゆくのです。

ポイント

他力の人は同じ浄土に 親鸞聖人「一つところに」

〔どうなんだろう？ 親鸞聖人の教えQ&Aより〕

8月10日御往生

青木

服部 常一様 (91)

喪主 田村 美奈様

8月16日御往生

通津

村重眞佐子様 (102)

喪主 村重 学様

8月24日御往生

通津

高田 和枝様 (49)

喪主 高田 紀子様

9月4日御往生

保津

賀屋恵美子様 (71)

喪主 賀屋 保則様

10月1日(火)、11月1日(金)

午前9時より45分間。正信偈和讃・法話。

9月5日御往生

平田

灰谷 弘子様 (83)

喪主 灰谷 明夫様

ご恩を偲び〔法事勤修〕(8月5日~9月8日)

- 【通津】白田憲光3、後川俊子7、内山克則1、竹田道生13、岸村千鶴子1、【保津】尾崎真一13、西宮良子1、熊田征三33、【青木】峯重貢7、岩中敏夫3、村岡正昭1、【藤生】村岡世志子13、【海土路】広重幸雄13、【由宇】島田義昭7、米川美奈子1、【今津】白木厚栄3、【麻里布】谷重勝信17、【京都】佐々江恵子7

法物下附式(入仏式)

8月14日 ご本尊 通津 高田 紀子様
大切にお勤め、お給仕ください。

歓喜会法要余香(8月29日・30日)

【講師】加藤一英師
【参詣数】(29日)昼座115名、夜座30名、(30日)昼座72名

ご案内します

*専徳寺倶楽部主催 秋研修旅行

【日時】11月10日(日)

【場所】高林坊(安芸高田市)、三次ワイナリー等

【定員】45名

【費用】3,500円

【申し込み】

電話にて、10月末までにお申し込みください。男性・女性どなたでもご一緒に参りましょう。

